

【 高校福祉科における教育内容・現状及び今後の課題について 】

1. 高校福祉教育の現状

(1) 福祉教育の発展的推移

- ①介護福祉士受験可能校の設置推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P1
- ②志願者数・入学者数等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P1
- ③在籍状況等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P2
- ④福祉実施校種別・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P2
- ⑤介護福祉士受検校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P2
- ⑥訪問介護員養成施設校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P2

(2) 全国高等学校数と在籍生徒数

- ①高等学校（全日制・定時制）の学校数と生徒数・・・・・・・・ P3
- ②高等学校普通課程の学校数と生徒数・・・・・・・・・・・・ P3
- ③高等学校総合学科の学校数と生徒数・・・・・・・・・・・・ P3
- ④高等学校専門課程の学校数と生徒数・・・・・・・・・・・・ P4

2. 高校福祉教育の内容

- (1) 教育課程表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P4～P6
- (2) 福祉担当教員の養成推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P6～P7
- (3) 高大連携による資質向上・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P7
- (4) 高校福祉科（福祉コース）の志願指数・入学者数・進路の推移・・・・ P8
- (5) 福祉科卒業生の進路の拡大・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P9

3. 高校福祉教育の課題

- (1) 社会が求める高校福祉教育への在り方について・・・・・・・・ P9～P13
- (2) 高校福祉教育での介護福祉士受験資格の継続・・・・・・・・ P13

平成18年2月27日（月）
厚労省 AM10：00～12：00

全国高等学校長協会家庭部会
福祉科高等学校長会
会長 高橋 福太郎
〔学校法人東奥学園 理事長
東奥学園高等学校 校長〕

全国高等学校長協会家庭部会福祉科校長会会長様

私は「JA はが野」生活福祉部で主任ケアマネジャーをしております。真岡北陵高校の教養福祉科の生徒とは平成7年の学科設立より実習指導等に関わっています。

最初は私の以前の職場であった真岡市健康増進課での訪問看護同行訪問実習でした。指導者として、どのようにすれば高校生が訪問看護の意義を理解できるかを考えながら計画を作成し、実際に同行もしました。高校生は想像してた以上に素直で、目標もはっきりとしていたことを覚えています。利用者と笑顔で接し、コミュニケーションも上手でした。反省会では質問も多く出て、高校生の感性の豊かさに驚きました。

その後は今の職場に移り、教養福祉科の卒業生4名と出会いました。2カ所のデイサービスセンターで働いて3～5年になる卒業生です。JAのデイサービスは全国に87カ所、栃木県内に17カ所あります。その中でも真岡市と芳賀郡には6カ所設置されています。この地域は数も多いですし、利用者も1日平均1カ所約25名で実績も上げていますが、課題として、さらに利用者を増やし成果を上げるためにはサービスの質の向上があります。そこで昨年4月よりNPO法人メイアイヘルプユウの葎田美知子先生に講師になって頂き研修を実施することにしました。研修は時間外ですので職員にもかなりの負担がかかります。ところが半年が経過したころ、利用者の個別性と自立支援を重視したサービスを目指す葎田美知子先生の高いハードルを越えようと職員が一つにまとまるような雰囲気になってきました。その中心に4名がいたのです。一人一人の利用者のケアプランの目標にそって、デイサービスセンターだけではなく、在宅での生活にも目を向けて研究を進めてくれました。高校で学習した基礎・基本と高校3年間に培った福祉マインドの上に応用力をつけ、目の前にいる利用者の状況をしっかりと把握して実践したのです。

いま、介護福祉士の資格を一本化するという意見が出ているということですが、実務を3年間積んで国家試験を受ける場合と高校福祉科で3年間学んだ場合とは内容が異なると考えています。福祉科の高校生は社会福祉制度や社会福祉援助など社会福祉をしっかりと学習していますし、介護の基本もしっかり身に付いています。生活経験は少ないかもしれませんが、福祉マインドが育っているなら、利用者の気持ちに添った介護は提供でき、サービスの質も上げることができます。地域福祉の推進にはJA はが野の4名のような若く感性豊かな人材を必要とし、今後も採用をしていく方向です。1月22日に実施した事例研究会の資料を送付致します。真岡北陵高校卒業生の研究内容です。ぜひ、ご覧ください。

平成18年2月13日

はが野農業協同組合

古谷久美子



「介護福祉士試験の在り方等介護福祉士の質の向上に関する検討会報告書」
に係る資格取得方法の見直しをすることを求める意見書

平成16年6月2日、厚生労働省社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室から「介護福祉士試験の在り方等介護福祉士の質の向上に関する検討会報告書」が出されました。

これからの社会福祉は、個人が人としての尊厳を持って、その人らしく生活していけるよう、利用者個々のニーズに対応したサービスを提供し、その自立を支援する必要があることから、介護福祉士のさらなる質の向上を目指して検討された内容となっております。

この報告書によりますと、特に「介護福祉士の資格取得方法について、指定養成施設の卒業者が受験資格を取得する方法に統一することを検討する」となっていますが、このことについて強く再考をお願いいたします。

本報告書によりますと、「高等学校福祉科の卒業生については、国家資格合格率は平均より高くなってきている一方、介護を必要とする者は生活歴が長く、高校生等の人生経験だけでは生活支援に対応できないなどの側面がある」と述べられていますが、専門学校の卒業生と人生経験にどれだけ差があると判断できるか疑問であります。本報告書の受験資格になると、高等学校福祉科の生徒が介護福祉士の資格を得る機会を失うこととなります。

高校生は、報告書の中に指摘されているように生活経験は未熟です。しかし、福祉科に入学してくる生徒は、将来は福祉に関する仕事に就きたいという目的意識の高い生徒がほとんどです。高校3年間で受験資格を得られることで頑張っています。

また、学校においても、介護福祉士の試験に合格すると共に豊かな人間性を身につける教育を行っています。卒業後は就職する生徒もいますが、福祉科で学んだことを機会に介護福祉士の資格も得て、より専門性を深めるために看護や保育等の上級学校へ進学し、幅広い知識・教養を身につけようとする生徒も増えております。

さらに就職した生徒については、職場での仕事ぶりは真面目であり、高齢者の方に誠意を持って当たると職場から高い評価を得ております。

就職先は、ほとんどの生徒が就学校の地域を中心に、親元にある施設を選び、高齢化した地域の若い人材として地域社会に貢献する存在となっています。

以上のことから、これまでどおり高校生にも介護福祉士の受験資格を与えることが必要であると考えます。



よって、次の事項の実現を図られるよう強く要望いたします。

記

1. 介護福祉士の受験資格を指定養成施設の卒業生に統一しないこと。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

平成16年12月10日

北海道亀田郡大野町議会
議長 長尾 信



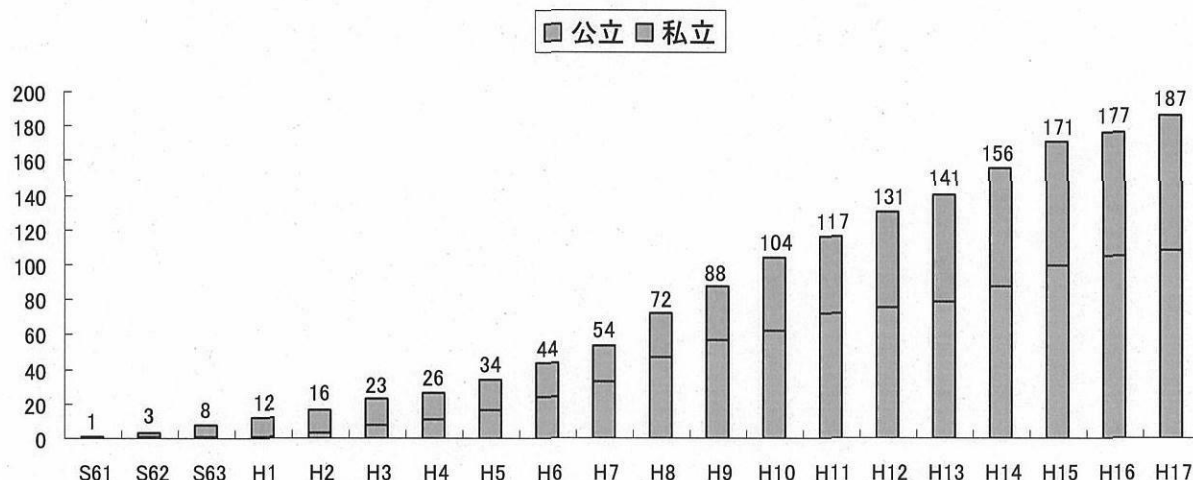
高等学校福祉科（福祉コース・教科「福祉」実施校）の現状

1. 高校福祉教育の現状

(1) 福祉教育の発展

昭和 61 年に介護福祉士受験可能校として、高校での福祉教育がスタートして以来、毎年 介護福祉士受験可能校・訪問介護員養成研修事業校・教科「福祉」実施校が量的・質的に充実・発展〔図 1〕、平成 17 年度、47 都道府県に介護福祉士受験校 187 校、訪問介護員養成研修事業校 643 校、教科「福祉」実施校 181 校、併せて 1,011 校となり、ここで福祉を学ぶ生徒は 78,402 名と〔図 2～図 6〕、現在高校教育で大きな領域と役割を担っている。

〔 図 1 : 介護福祉士受験可能校の設置推移 〕



〔 図 2 : 志願者数・入学者数等 〕

